

DXへの取り組み

推進体制

DXへの取り組みが企業全体の変革を促進し成果に結びつくよう、経営層が戦略的な方向性を決定し、組織全体で推進する体制を構築します。具体的には、専任の推進チームの設置、取り組み毎に最適な活動形態による運用、活動を支えるDX人材の育成、推進体制の整備状況や活動成果の指標管理などです。

活動組織・スキーム

2022年7月、IT本部を新設し、既存の情報システム部門を傘下に加えるとともに、ITを積極的に活用して全社的なDXを推進するIT企画室を新たに設置しました。

IT企画室は、当社の経営戦略を実現するためのDXロードマップを取りまとめ、優先的に取り組むべきプロジェクトの見極めや投資計画の検証について、長期的な視点で経営層と確認を行い、全社へ展開する重要な部門として機能しています。

なお、取り組み毎の要件に合わせ、プロジェクト、クロスファンクショナルチーム、定常組織での活動など、柔軟に推進体制を組み遂行します。

人材育成

当社では、教育を主管する組織としてMLI（マブチ・ラーニング・インスティテュート）を設置し、当社独自の教育体系に基づく研修を実施していますが、全社員に対するITや情報セキュリティの基礎教育もこの体系で網羅しています。一方、DXに関連するトレーニングや教育としては、2024年から、全社員に対するITパスポート資格の取得奨励、高度な情報技術者資格の取得奨励、DX人材候補のDX関連プロジェクトへのアサイン等、全体スキルの底上げからエキスパートの育成まで、新たな手段による推進策を開始しました。

推進体制の整備状況や活動成果の管理

取り組み中のDXテーマに適した管理指標を設け、推進体制の整備や活動の進捗及び成果の評価を行っています。現在の主なDXテーマと管理指標は以下のとおりです。

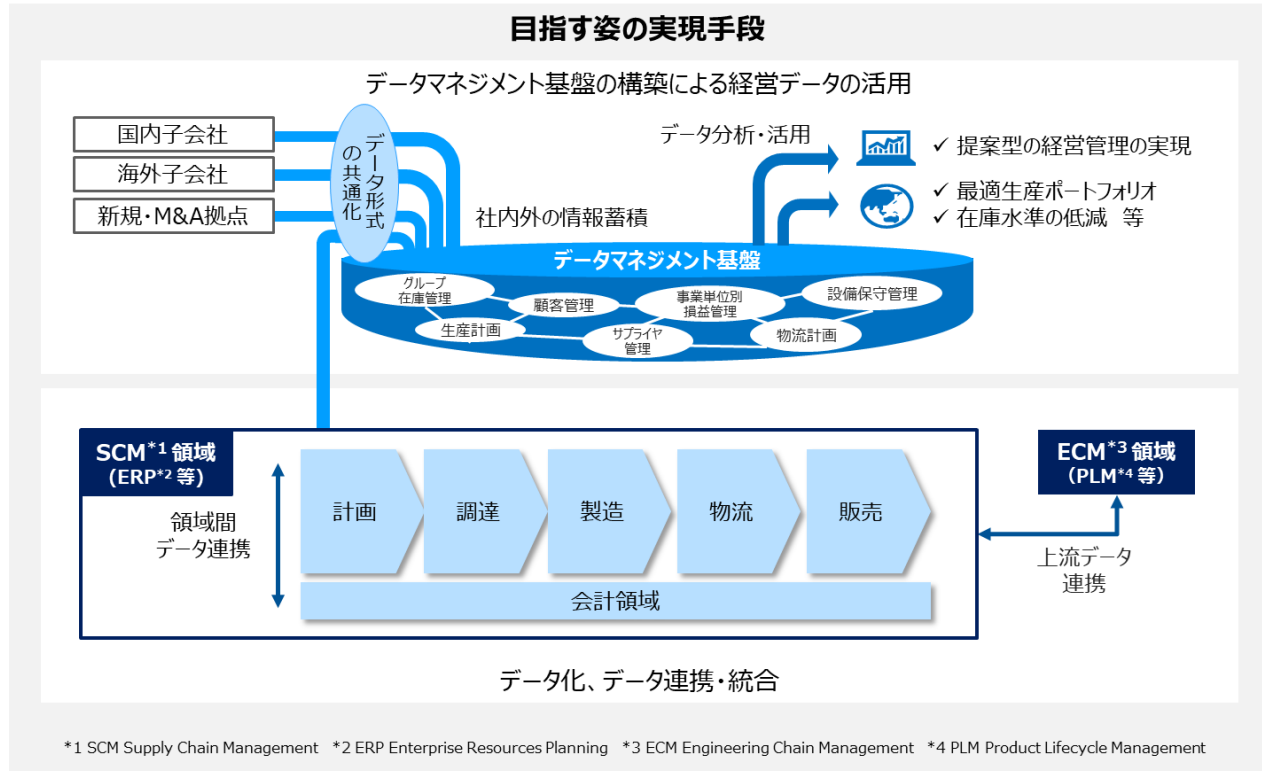
DXテーマ	管理指標
① グローバル情報に基づくタイムリーで高精度な経営判断の実現	AIやデータを活用した業務改革プロジェクト数
② 業務のIT化による生産性向上	自動化・効率化を実現した業務数
③ 社員のDXリテラシー向上	セキュリティ教育数／訓練実施数 ITパスポート資格取得率

具体的な取り組み

- DX テーマ① グローバル情報に基づくタイムリーで高精度な経営判断の実現

データマネジメント基盤の整備を行い、経営判断から実行・改善（PDCA）までの高速化実現を目指します。

【主な活動】データマネジメント基盤構築、データ活用 AI 導入、グループ経営基盤強化（会計領域）、ERP 刷新など



<活動事例の詳細>

データマネジメント基盤構築：

ERP、PLMなどに点在しているデータを、データマネジメント基盤に統合します。従来は、事業全体あるいは全社的な分析のため各システムのデータを手作業で結合・加工するなど時間も工数費やしていましたが、今後は統合されたデータを経営・事業・部門のKPI管理に活用し、ニーズに応じた分類やドリルダウンが可能なBIダッシュボードなども整備します。また、予測AIの入力データとしても重要となります。

グループ経営基盤強化（会計領域）：

会社の成長や事業拡大に向けて、グループ会社全体のデータ連携・統合を通じた会計領域のプロセス変革により、決算早期化や原価・売価・利益計画の管理体制強化を目指します。

ERP刷新：

グループ会社全体で運用しているERPは、M&Aによって拡大する新たな事業領域への対応やERPのライフサイクルに合わせたシステムに刷新します。次世代版では、残存するレガシーシステムの取り込みを合わせて実施します。

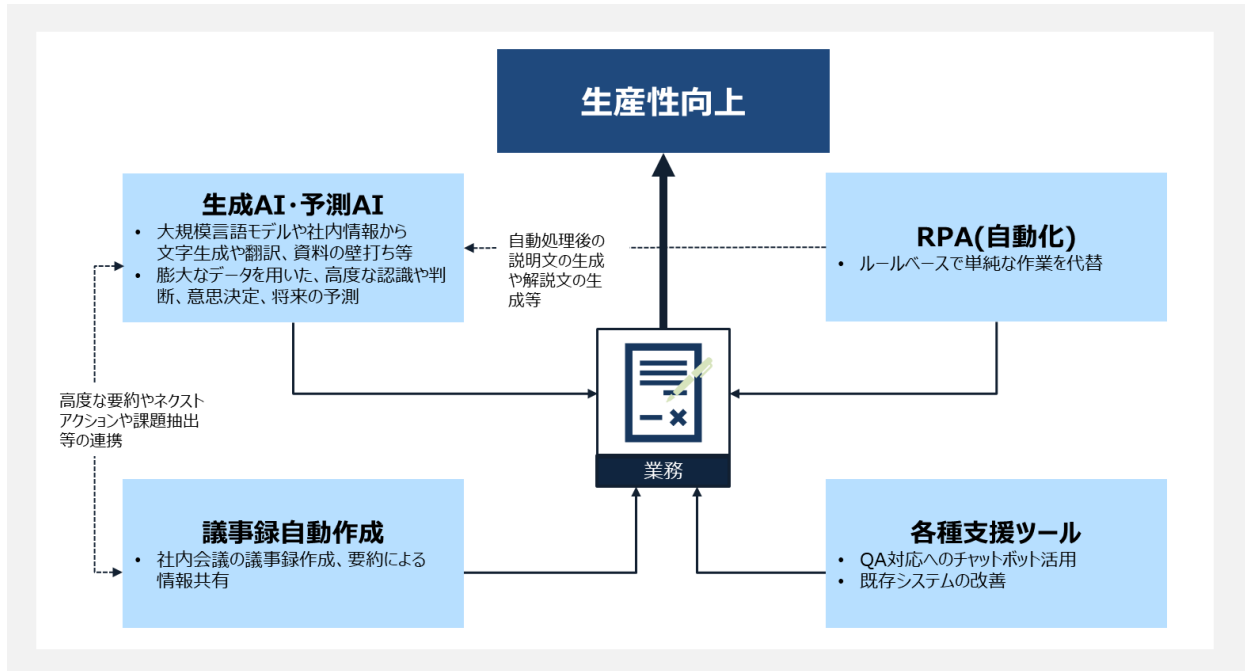
<ITシステム環境>

データマネジメント基盤として、ETL（Extract Transform Load）によるデータ収集、データレイク・データウェアハウス・データマートによるデータ蓄積、BI・AIによるデータ活用といった構成を新たに構築します。一方、それぞれのシステムにおいても、IoTの活用などによる取り込みデータの拡充を計画しています。

- DX テーマ② 業務の IT 化による生産性向上

デジタル化を中心とした業務の IT 化により、間接業務の効率化と生産性向上を図ります。

【主な活動】生成 AI・予測 AI の導入、RPA による自動化、議事録自動作成、リモートワーク環境改善など



<活動事例の詳細>

生成 AI・予測 AI の導入：

大規模言語モデルは、セキュアに社内情報を学習し活用できるサービスが選択可能な状況を受けユースケースを検証、導入効果を認め社内で展開中です。予測 AI は、営業活動や生産現場の膨大なデータを機械学習させ、事業計画や品質管理へフィードバックが可能なモデルを構築中です。

RPA による自動化：

間接業務の棚卸によって、RPA による自動化で工数削減や品質改善効果を見込めるものが多数あることを確認。ロボットの実行精度をモニタリングする仕組みと合わせて、適用メリットの大きな業務から順次展開中です。

議事録自動作成：

社内会議の議事録を始め、自動作成の対象を拡大中。社内・社外を問わず多言語で実施される会議も多いため、翻訳機能の精度にも着目してツール選定を行っています。

リモートワーク環境改善：

リモートワーク比率の増加、ビデオ会議などコミュニケーション手段の変化、クラウドシステムへのアクセス増加などに適応するため、ネットワークやクライアントの機能を見直しました。

<IT システム環境>

レガシーシステムで運用していた基幹業務システムをクラウド上の ERP などで刷新すると並行し、業務を遂行する担当者により近い部分にも着目して IT 化を進めようとする活動になります。

この活動においては、担当者が業務で効果的に活用を見込める各種のツールを利用できるようにするため、これまで構築してきたシンクライアント的な利用環境をファットクライアント的な利用環境へと移行することにしました。また、ゼロトラストの思想に基づき、セキュリティ対策を強化し場所を選ばない作業環境を整備しています。

- DXテーマ③ 社員のDXリテラシー向上

DXへの取り組みを促進させるため、従来から整備していた当社の教育・研修制度に加えてリテラシー向上策を実施することで、限定した人材の育成のみならず、全社的な学習機運の盛り上げを図っています。

【主な活動】各種ITツールの活用促進に向けた教育、情報セキュリティに関する教育・訓練、全社員のITパスポート資格取得奨励など

情報セキュリティ対策

当社は、DXへの取り組みにより、IT及びデータを最大限に活用した業務の効率化や顧客への提供価値向上を目指していますが、一方で、情報セキュリティを重視し、グループ全体の情報ネットワークに対するセキュリティ強化にも取り組んでいます。最新のセキュリティ技術やデータ保護策に代表されるハード面と、運用ルールの最適化やセキュリティ意識の向上によるソフト面の両面で、整備計画を立案し遂行しています。

また、情報セキュリティ対策は、当社のリスク管理体制の枠組みの中で運用しており、リスクマネジメント委員会を通して、平時及び緊急時の組織横断的な活動を可能としています。

なお、これらの情報セキュリティ対策や情報システム、あるいは情報資産そのものを対象とするアセスメントや内部監査・外部監査も導入しており、信頼性の高い制度・プロセスとして常に改善が図られる仕組みを構築しています。